

第2次亀山市環境基本計画に関する実績等報告書（令和7年度）

（ 産業環境部 環境課 ）

■計画の基本情報

計画期間	R 3 ～ R 12 年度																					
位置付け	本計画は、亀山市環境基本条例第8条第1項の規定に基づき策定したものであり、本市の環境分野における基本計画として位置付けている。また、第2次亀山市総合計画後期基本計画との関連は、基本施策「脱炭素社会の実現に向けた取り組みの推進と循環社会の構築」と深く関わるものである。																					
目的・概要	本市の環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市民の健康で安全かつ快適な生活の確保と福祉の向上に寄与することを目的とする。 本市が目指す10年後の環境の姿として「みんなの笑顔かがやく環境のまち 健都 かめやま」を掲げ、5つの基本施策や4つのプロジェクトにより具現化を図る。																					
計画の骨格	<table><tr><th>目指す環境の姿</th><th>《あるべき姿》</th><th>《基本施策》</th><th>《プロジェクト》</th></tr><tr><td rowspan="4">みんなの笑顔かがやく環境のまち 健都 かめやま</td><td>1 豊かな自然の恵みが実感できる 緑と潤いに満ちあふれたまち</td><td>共生 人と自然の共生</td><td>「緑：Green」 生物多様性を「学び」「創り」「守る」</td></tr><tr><td>2 良好な生活環境ときれいな水が 流れる安心して住み続けられるまち</td><td>快適 快適な生活環境の創造</td><td>「美：Clean」 地域に最適な環境美化システムの構築</td></tr><tr><td>3 資源の有効利用と循環により 「もの」を大切に持続可能なまち</td><td>循環 循環型社会の構築</td><td>「零：Zero」 食品ロス削減のための仕組みづくり</td></tr><tr><td>4 エネルギーの効率的な利用と創出 により地球環境にやさしいまち</td><td>低炭素 脱炭素社会につながる 高度な低炭素社会の構築</td><td>「活：Energy」 再生可能エネルギーの更なる活用と適正導入の促進</td></tr><tr><td></td><td>5 多様な主体が参画・協働し、良好な 環境の保全と創造に取り組んでいるまち</td><td>参画・協働「Partnership」 参画・協働による推進</td><td></td></tr></table>	目指す環境の姿	《あるべき姿》	《基本施策》	《プロジェクト》	みんなの笑顔かがやく環境のまち 健都 かめやま	1 豊かな自然の恵みが実感できる 緑と潤いに満ちあふれたまち	共生 人と自然の共生	「緑：Green」 生物多様性を「学び」「創り」「守る」	2 良好な生活環境ときれいな水が 流れる安心して住み続けられるまち	快適 快適な生活環境の創造	「美：Clean」 地域に最適な環境美化システムの構築	3 資源の有効利用と循環により 「もの」を大切に持続可能なまち	循環 循環型社会の構築	「零：Zero」 食品ロス削減のための仕組みづくり	4 エネルギーの効率的な利用と創出 により地球環境にやさしいまち	低炭素 脱炭素社会につながる 高度な低炭素社会の構築	「活：Energy」 再生可能エネルギーの更なる活用と適正導入の促進		5 多様な主体が参画・協働し、良好な 環境の保全と創造に取り組んでいるまち	参画・協働「Partnership」 参画・協働による推進	
目指す環境の姿	《あるべき姿》	《基本施策》	《プロジェクト》																			
みんなの笑顔かがやく環境のまち 健都 かめやま	1 豊かな自然の恵みが実感できる 緑と潤いに満ちあふれたまち	共生 人と自然の共生	「緑：Green」 生物多様性を「学び」「創り」「守る」																			
	2 良好な生活環境ときれいな水が 流れる安心して住み続けられるまち	快適 快適な生活環境の創造	「美：Clean」 地域に最適な環境美化システムの構築																			
	3 資源の有効利用と循環により 「もの」を大切に持続可能なまち	循環 循環型社会の構築	「零：Zero」 食品ロス削減のための仕組みづくり																			
	4 エネルギーの効率的な利用と創出 により地球環境にやさしいまち	低炭素 脱炭素社会につながる 高度な低炭素社会の構築	「活：Energy」 再生可能エネルギーの更なる活用と適正導入の促進																			
	5 多様な主体が参画・協働し、良好な 環境の保全と創造に取り組んでいるまち	参画・協働「Partnership」 参画・協働による推進																				

■成果指標

	成果指標名	単位	現状値	実績値 (R6)	目標値
1	別紙参照				
2					

■計画の実績等

取組実績	市民に自然と触れ合う機会や学習する機会を提供するため、里山塾、ザリガニ釣り大会、亀山7座トレイル(登山講座)等のイベントを開催した。かめやま生物多様性共生区域認定制度において区域を認定したことで生物多様性が保全された。市内の主要事業所、河川、ため池において、水質検査、騒音・振動測定に加え、鈴鹿川2ヶ所、広瀬川1ヶ所の3地点にて、PFOS、PFOAの水質検査を行うとともに、公共下水道事業の推進により、生活排水処理施設の整備を行った。生ごみ処理容器及び食品ロス削減マッチングアプリ「かめやまタベスケ」の利用促進、不用品買取価格サイト「おいくら」運営事業者との連携など、4Rの普及、啓発に取り組んだ。地球温暖化防止につながる『緑のカーテン運動』に取り組むため、ゴーヤの苗を市民及び公共施設の管理者に配布した。また、本市の豊かな自然環境と調和した太陽光発電施設の適正導入を図るため、市独自の条例制定に向け、条例案について市環境審議会やパブリックコメントを実施し意見を求めた。当該計画の推進を図るにあたり、市民、事業者及び関係団体等から幅広い意見を反映するため、環境未来創造会議及び基本施策ごとの部会を開催した。
成果	自然環境に関するイベントを開催したことにより、生物多様性に関する周知・啓発に貢献できた。申請のあった4件をかめやま生物多様性共生区域に認定したことで生物多様性の保全につながった。新たに市内に立地した事業所等と環境保全協定を締結するとともに、市内の主要事業所、河川、ため池において、水質検査、騒音・振動測定を行い監視することにより鈴鹿川の良好な水質が維持できた。生活排水処理率では、公共下水道事業井田川・能褒野処理分区及び本町南部処理分区、亀山東部処理分区、布気処理分区の4処理分区への接続が開始した。ごみ減量化等の取り組みにより1人1日当たりのごみ排出量は前年度から大きく減少した。一方、ごみの資源化率は前年度と比較して1.8ポイント低下した。そして、第2次市環境基本計画を推進するための会議及び部会を開催したことにより、当該計画の推進体制が確立できた。
総合計画推進への寄与度	里山管理運営協議会等と連携し、自然公園を活用して市民に自然と触れ合う機会等の提供を行ったことで自然との関りを深めることができた。生物多様性共生区域認定制度において4件を認定し、計14件(約57.6ha)の区域が生物多様性の保全につながった。1人1日あたりのごみ排出量は856gと令和12年度の目標値880gを下回った。ごみの資源化率は24.5%と前年を下回ったが、ごみ減量、再利用、再生利用の取り組みを行ったことで循環型社会の構築に寄与することができた。

反省点・課題	自然環境イベントや環境に関する講座など、自然と触れ合う場を引き続き提供し、自然と触れ合い、理解を深めていく必要があること、また、生物多様性を守る認定区域の増加する必要がある。また、循環型社会を構築するため、更なるごみ排出量削減、4Rの推進のための取り組みや、高度な低炭素社会を構築するため、市域の二酸化炭素排出量は減少したものの市民・事業者に対し、更なる省エネルギー・省資源行動を促進する必要がある。
--------	--

今後の方向性	環境イベントや講座への参加人数の増加を図るための周知・啓発に努める。また、幼稚園、保育園や学校等に環境関連イベントへの参加を呼び掛ける。生物多様性共生区域認定制度により、生物多様性の保全のため認定区域の増加を図る。更なるごみ排出量の削減、4Rの推進には、排出者の意識の変化が重要であることから、多様な視点や発想、ごみダイエツトサポーターとの連携による新たな取り組みの検討を行うとともに一般廃棄物処理基本計画の施策に着実に取り組む。市域の二酸化炭素排出量削減に向け、市民・事業者に対し、更なる省エネルギー・省資源行動を促進するための周知・啓発に努める。
--------	---

■成果指標

現状値及び目標値 … 第2次亀山市環境基本計画(2021～2030) 各基本施策成果指標参照

成果指標名		単位	現状値 (R1)	実績値 (令和7年度)	目標値 (R12)
1	自然環境に関するイベント等に参加した人数等	人	8,563	7,106	9,500
2	外来生物の駆除に取り組む市民活動団体数	団体	3	2	8
3	間伐面積(平均)	ha	183	143	200
4	環境美化ボランティア登録団体数	団体	31	36	40
5	環境保全協定の締結数	件	77	94	100
6	生活排水処理率	%	81.4	83.9	92.1
7	1人1日あたりのごみ排出量	g／人・日	943	856	880
8	ごみの資源化率	%	30.8	24.5	38.0
9	溶融飛灰の資源化率	%	100	100	100
10	市域における二酸化炭素排出量	(千t-CO2)	1,322	1,131 (令和5年度)	1,156
11	再生可能エネルギー発電施設の導入件数	件	2,662	3,480 (令和6年度)	3,500
12	環境に関する講座等への参加人数	人	3,184	2,636	3,500
13	環境関連分野において連携・協働による取組を行っている団体(組織)数	団体(組織)	13	23	20

